



多様な親子の場 [ことさんち]

2024/11/19



多様な親子の場[ことさんち]

〈課題からの2つの場〉

里親子・縁組親子のためのあそび場 [ことさんち]



横浜市子育て支援員として親子の相談を受けている中
『出生を伏せている方々の子育て相談のしにくさ』
(妊娠期の話題・DNAからの話題…)を課題と考える



養育里親子・養子縁組親子が集まれる場作りを
児童相談所へ提案し賛同と協力を得る



里親子・縁組親子のためのあそび場
[ことさんち]を
月に1度定期開催

里親子・特別養子親子が
気軽にあそべる = 話題を気にせずに参加できる
気軽に子育て相談 = 事情を知った者への相談ができる
同じ境遇の者同士の出会い = 親も子もつながる



誰もが 〈あそび〉と〈おもちゃ〉でつながる場 『あかちゃんの会とおもちゃの広場』

・行政が行っている『あかちゃんの会』に
『第2子以降参加不可』
を課題と考える (今年度より参加可)

・親子だけではなく

老若男女問わず集まる場の必要性を考える



〈あそび〉と〈おもちゃ〉でつながる場
『あかちゃんの会とおもちゃの広場』を
月に1度定期開催

〈あそび〉と〈おもちゃ〉から
老若男女誰もが参加&つながる場
親子が向き合える時間と空間
子育て相談から人生相談が可能な場

里親子・縁組親子のためのあそび場 あそびにおいて[ことさんち]

〈開催内容〉

- ・月に1度【あそび】やゲーム工作やお話など

〈目的〉

- ・同じ境遇の者同士が知り合える場 & 親子で気兼ねなく集える場作り
- ・親子になった経緯関係なく知り合える機会作り
- ・事情を知った者へ気軽に子育て相談ができる環境作り

〈今後〉

- ・行政(主に児童相談所関係・フォスティング機関等)と現場(里親子)の橋渡し
- ・経緯や自治体などを超えたつながりの機会と場で枠を超えた親子それぞれのつながりと協力体制作り
- ・里親制度啓発活動による里親制度周知と存在の周知

〈参加組数〉

- ・初回2022.4/21開催4組
→現在、平日～8組・休日～18組程度参加へ増加

〈参加者〉

- ・開催場所(横浜市都筑区)周辺からの参加者のみ
→現座、川崎市・平塚市・座間市・鎌倉市・茅ヶ崎市の他東京都や千葉県といった県外からも参加有(養子縁組幹旋団体数団体からの賛同協力有)

参加者からのメッセージ

娘と通って一年以上
たくさんの養子縁組家族と
知り合えて嬉しいです。
養子を迎え入れる際は
研修、面接、裁判手続きなど
さまざまなことを経て
子どもを迎え入れます。
そのような境遇を
共に経験した家族と知り合える
貴重な場所です！



誰もが〈あそび〉と〈おもちゃ〉でつながる場 『あかちゃんの会とおもちゃの広場』

〈開催内容〉

- ・月に1度
『あかちゃんの会』0歳親子を対象(兄弟も可)
『おもちゃの広場』誰でも対象
自由あそび・おもちゃや飾り作り・手あそびやお話
- ・子育て相談・人生相談受付

〈目的〉

- ・交流・友だち作り
- ・コミュニケーションを大切にしたおもちゃで親子時間や自分の時間を過ごす
- ・世代を超えて集える場作り
- ・時事に合った柔軟な対応が可能な居場所作り

〈今後〉

- ・多様な親子が気軽にいつでも出入りのできる場として将来に向けた多様さの周知と受け入れ環境作り

〈参加組数〉

- ・初回2023年4/24より現在に至るまで満席組数10組以上の予約有(当日キャンセルでの減有)



『知ること』からの様々な形の親子が生きやすい社会作り

〈[ことさんち]の理念〉
様々な形の親子が特別視されることなく
生きやすい社会を作ること

様々なかたちの親子のひとつ『養子縁組親子・養育里親子』の
存在・当事者の思い・制度・現状などを多くの人に知ってもらうことから活動中

[まつり・地元マルシェで啓発活動]

チラシ配布・ポスター掲示
身近な話題として知る機会作り



[里親制度お話し会]

里親になる人もならない人も
制度について気軽に話が聞ける場
制度と存在を知る機会作り



里親制度お話し会

「里親里子が特別視されず
誰もが生きやすい社会を作ること」を
目標に
まずはたくさんの方々に
「里親制度」について
知っていただくことから
と
考えています

多様な親子のひとつを知る機会として
是非お気軽に
いらしてください



横浜市都筑区役所 区民ホール

2024年8/15～8/21

様々な親子の形と良さを知る機会作り

活動の様子・親子写真とメッセージ・パネル展示

いろんなかたちの親子展



a variety of families
cotosanchi since2022



2歳の娘、パパ、ママの3人家族です。
我が家は、娘、そしてパパも養子です。
ですので、私達家族にとって養子縁組は
ごく身近で自然なことです！

血の繋がりは大事かも知れませんが
それ以上に家族は人と人との繋がりがベース。

一緒に笑ったり、泣いたり、
かけがえのない時間を過ごしていく。
どのような時間を一緒に紡いでいくか、が
大事だと思います！

これはどの家族も一緒ですね！



「娘さんはお父さん似？お母さん似？」

「この子は特別養子縁組で授かったので、
DNA的には関係なくて…
「Iちゃんはちゃんなんです。」
「そうなの！でもそっくりだわ。」

そう、私たちもそっくりだと思う。

顔形ではなく、
表情やしぐさを見たら養父母の私たちそのまま。
「母さんからいただいた健康な体としなやかな性格と合わせて、
ハイブリッドな彼女を形造っている。

Iちゃんは2人の母親と2人の父親を持ち、
2倍の祝福を受けている。



「養子縁組＝血縁ない」その通りです
でも当然ながら父と母も血縁ありません

血縁ない親子は家族ではない？
では家族って何でしょう？

今、養子縁組を迎えて家族として
子の成長と生活を楽しく過ごしています

ただ「どっち似？」と言われることがあります
正直回答に躊躇してしまう

でも生活を共にしていく中で
言葉使いや仕草性格が似てきます

親子だと実感します

実母さん
この子を産んでくれてありがとうございます
あなたの勇気でこの子の今があります

斡旋団体の皆さん
実母さんと我が家をフォローしていただき
ありがとうございます

そして
この子に関わる全ての皆さん
いつもありがとうございます

目の前に広がる広い広い空の下
考えられないほどの多くの偶然と
沢山のありがとうによって
娘と私たちは出会いました

特別養子縁組の「特別」って
素敵な「特別」だったんだね♪

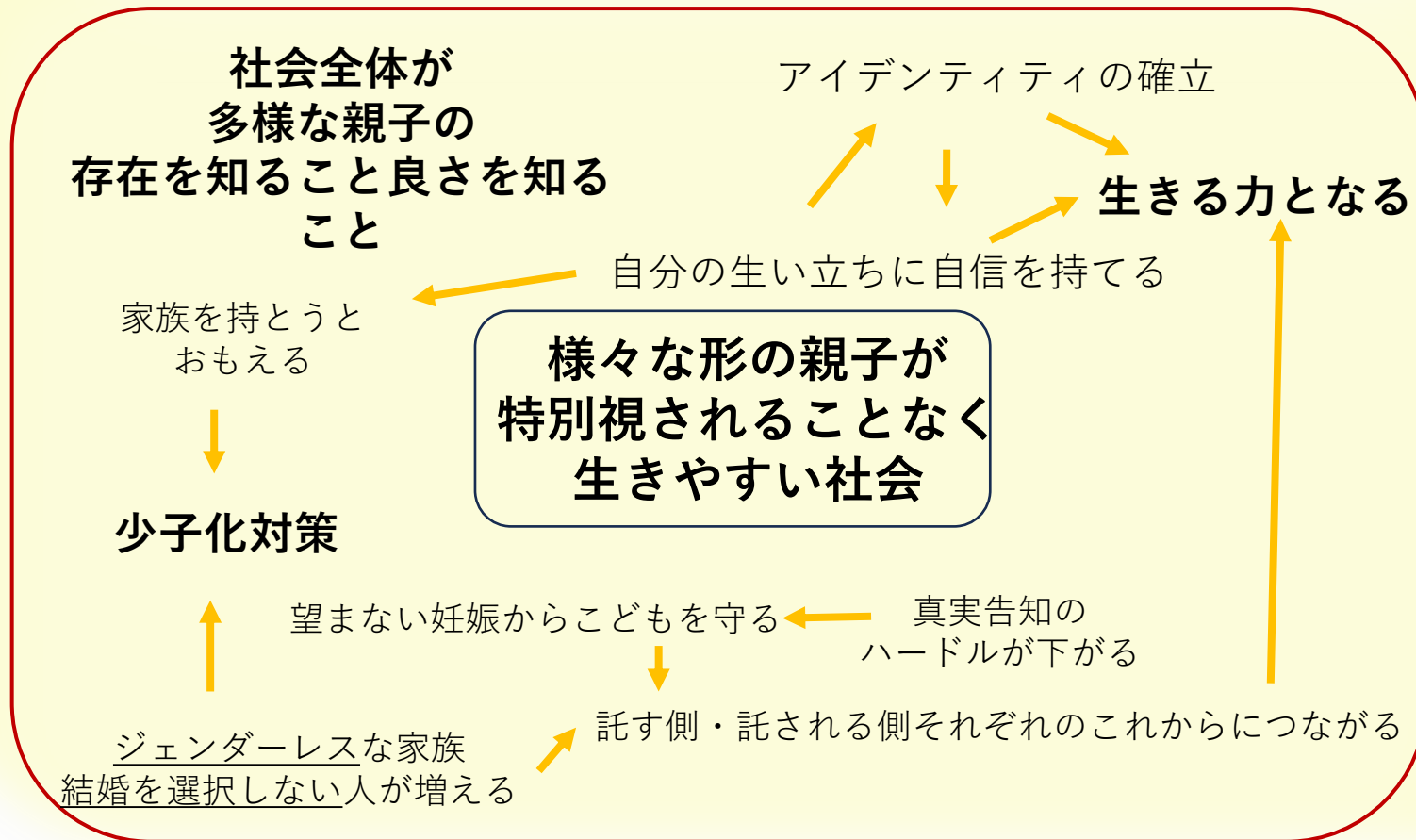




先を見据えた『**知ること**』からの**生きやすい社会**へ

多様性を認める社会へと進む日本⇒様々なかたちの親子が増える
どんな親も子も生きやすい社会＝特別視されない社会をつくることで

誰でも子育てしやすい社会となる＝親の心身の健康とともに**子どもの健やかな成長**につながる
(虐待・貧困・望まない妊娠・不妊・少子化…対策へ)



〈需要と期待の現れ〉

- ・ 参加者の増加
数値別紙参照
- ・ 参加者・当事者の協力
パネル写真とメッセージ提供
紹介・斡旋団体への周知
- ・ 行政などの協力増加
児童相談所・市役所・議会などからの
協力の広がり